

誰でも出来る ネットショップ撮影術



■著作権について

本冊子と表記は、著作権法で保護されている著作物です。

本冊子の著作権は、発行者にあります。

本冊子の使用に関しましては、以下の点にご注意ください。

■使用許諾契約書

本契約は、本冊子を購入した個人・法人（以下、甲と称す）と発行者（以下、乙と称す）との間で合意した契約です。本冊子を甲が受け取り開封することにより、甲はこの契約に同意したことになります。

第1条 本契約の目的：

乙が著作権を有する本冊子に含まれる情報を、本契約に基づき甲が非独占的に使用する権利を承諾するものです。

第2条 禁止事項：

本冊子に含まれる情報は、著作権法によって保護されています。甲は本冊子から得た情報を、乙の書面による事前許可を得ずして出版・講演活動および電子メディアによる配信等により一般公開することを禁じます。特に当ファイルを第三者に渡すことは厳しく禁じます。甲は、自らの事業、所属する会社および関連組織においてのみ本冊子に含まれる情報を使用できるものとします。

第3条 損害賠償：

甲が本契約の第2条に違反し、乙に損害が生じた場合、甲は乙に対し、違約金が発生する場合がございますのでご注意ください。

第4条 契約の解除：

甲が本契約に違反したと乙が判断した場合には、乙は使用許諾契約書を解除することができるものとします。

第5条 責任の範囲：

本冊子の情報の使用の一切の責任は甲にあり、この情報を使って損害が生じたとしても一切の責任を負いません。

目次

第一章.....	6
はじめに.....	7
セッティングについて.....	8
第二章.....	11
小物撮影 ～基本編～.....	12
第三章.....	22
小物撮影 ～応用編～.....	23
第四章.....	25
大物撮影 ～家具編～.....	26
第五章.....	31
シズル撮影 ～料理編～.....	32

第六章.....	39
人物撮り ～男性スタッフ編～.....	40
人物撮り ～女性スタッフ編～.....	47
第七章.....	52
おわりに.....	53

第一章 はじめに

こんにちは。写真家のニコです。

この度はご購入頂き誠にありがとうございます。

このテキストを作るに当たり、ショップ経営をされている皆様が必要な情報とはどのようなものだろうかとスタッフとリサーチを重ねました。

様々な業種の方がいらっしゃる中で、多くの方に満足いただける内容でなければならない、と非常に悩みました。

そうして試行錯誤を重ね、出来上がったのがこのテキストです。

はっきり言って、写真の撮り方とは無限にあります。

その中で、ネットビジネスに特化し、専門知識の少ない方にも実践できるようにシンプルにマニュアル化したものを載せています。

ご自分で培われた知識や経験がおありの方はぜひ応用して頂き、より良い写真を撮っていただけると幸いです。

セッティングについて

では実際に始めてみましょう。

このやり方には以下のメリットがあります。

- ◎毎回ほぼ同じシチュエーションで撮れる
- ◎季節感、イメージの変化に柔軟に対応可能
- ◎盗用防止

もちろんすべての商品に向いてるとは思いません。

ご自分のビジネスにどう応用が可能かイメージして頂けると幸いです。

やるべきことは

- 背景になる壁を作る
- 撮影の舞台となる場所を作る

以上です。

それでは具体的にセッティングしていきましょう。

まず、ご自宅・オフィス・店舗、どこでも結構です。

その中で、壁を一面確保してください。

その面積は扉 1～2 枚分で結構です。

この壁がすべての背景になります。

できることなら、直射日光日光が当たらない場所が理想です。
カーテンやブラインドで調整可能ならそれでも結構です。

みなさんにまずやっていただきたいのが、
この壁を自社サイトのイメージに沿った形にデコレーションして頂きたいの
です。

ですが決して過剰にデコレーションしないでくださいね。

例えば、優しいイメージのお店なら木目調の壁を選んでもらうとか、
ただの白い壁に店舗名を入れた小さな額を一枚飾るとか、
可能ならロゴをペイントしたりとか。
ピンを刺しておいて、何かを掛けてもいいですね。



当社のロゴをピンで貼ってみました。

壁の色が気に入らないのであれば、何か大きな紙を貼っておいても良いかもしれません。

実店舗であれば、綺麗に陳列された商品棚でも結構です。

できましたら、まずその壁に向かってライティングしましょう。

天井のライトをその壁に向けられれば楽ですね。

無い場合はクリップライト等を利用して結構です。

デコレーションした部分より上から光を当てます。

影の具合を見ながら、ライトの場所を微調整してください。



●撮影の舞台となる場所を作る●

では、次に、撮りたい商品が載るテーブルを用意します。

セッティングした壁の前に設置しましょう。

この時に、テーブルも映ります。

見た目のイメージが合わない場合はイメージに沿った布や紙を敷きましょう。

先ほどのデコレーションした壁の部分が、このテーブルと商品の邪魔をしないように大きさや場所を考えてくださいね。

もちろん写真に映らないとなんの意味もありませんので、デコレーションの場所を変えるか、テーブルの高さを変えるか、どんな方法でも OK です。

写真の画面に収まるよう調整してください。

無事にテーブル面が出来上がりましたら、試しに商品を置いてみましょう。

どうですか？

まだライティングをしていませんが、オリジナルの商品台ができたかと思えます。

この舞台を中心に撮影して行きましょう。

様々な応用編も書いて行きますので、準備編はこの辺で。

第二章
小物撮影
～基本編～

ではまず設置したテーブルに置けるような小物の撮影を実践して行きたいと思います。

どんなモチーフでも言えることなのですが、何よりもまず、使用しているシチュエーションや商品のイメージにどれだけ迫れるかということ意識して頂きたいです。

では気を付けたいポイントは以下の3点です。

- イメージをより表現するための工夫をしよう
- スタンドライトでシンプルライティング
- 背景も計算に入れたアングルで

では具体的に説明します。

- イメージをより表現するための工夫をしよう●

イメージ写真に、ただ一つ置いて撮影しては芸がありません。
例えばペアカップなら重ねて見たり。

最低限の脇役を同時に配置して世界観の表現に努めましょう。

例えば、このコーヒーカップ。



2種類のカラーがあるとします。

もちろん個別ページ用に単品撮影は必要なのですが、それがイメージ写真としては物たりません。

ですので重ねて見たり、同時に配置して見たり。

実際にコーヒーを入れて使用してみてもいいですが、ここはあえてドライなまま撮影して見ましょう。

コーヒーを表現するためにコーヒー豆をテーブルに転がして見ます。

*このコーヒー豆の使い方、他の素材でも応用してみてください。
お皿ならドライパスタやフルーツ、アクセサリーなら花や観葉植物の葉、
文房具ならそれに付随する商品（万年筆ならノート等）。

やりすぎると逆効果なのであくまでもシンプルに。



コーヒー豆を転がして、カップを二つ置いてみました。

背景に季節感を取り入れても OK です。

クリスマスの季節感を出すならイメージなら壁にリースを掛けるとか。

アイデア次第で様々な設定が作れると思います。

●スタンドライトでシンプルライティング●

舞台に直射日光が当たるようであればカーテンなどでコントロールしてください。

なぜかという、いつも晴れた時に撮れる訳ではありません。

季節によって太陽の高さも違います。

ですので自然光が入らない場合でも撮れるようにセッティングしましょう。

現在、強いライトとしては、背景に当たっているライトのみかと思います。

この背景面から軽く跳ね返ってくる光がとても重要です。

逆光っぽくなっていると思いますので、今度は正面側からのライトを配置します。

スタンドライトで結構です。

左前方、商品より高い位置から当てましょう。

この時気をつけて頂きたいのが、背景用のライトと同じ種類の電球を使って下さい。

背景用が蛍光灯、商品用のメインライトが白熱灯、とならない様に。

白熱灯なら白熱灯で揃えてください。

あまり近づけすぎて影が強く出過ぎてもよくありませんので程よく離れた位置で。

次の例を参考にしてください。



背景に当てたライトと、左前方からのスタンドライト



同じライティングを別アングルから

●背景も計算に入れたアングルで●

そして一番大事な部分がアングル。

普段椅子に座って見ている角度ではインパクトが足りません。
できるだけ商品の高さに近づけて撮って見ましょう。

そうした時に背景にしっかりデコレーションが入ると素敵ですね。



組み合わせたイメージカットが撮れたら、そのまま単品の撮影に臨みましょう。

ライティングは基本そのままで大丈夫なはずです。



同じライティングで単体も撮影します。

どうですか？いつもとは完成度の違うイメージ写真が撮れたかと思います。

シンプルなライティングなので応用はとても効くと思います。

商品に合わせてしっかり世界観の表現をして撮影してください。

第三章
小物撮影
～応用編～

テーブルを使った撮影方法をご紹介しましたが、
中にはそれよりは吊るした方が見栄えがするものもあります。

そんな商品に向けた方法をご紹介します。

先ほどデコレーションした壁にフックを付けて吊るのです。

もちろん普通の画鋏とかは使わないでくださいね。
少なくとも虫ピンとか、飾り気のあるフックを使って吊るすと良いかと思
います。



もちろんペンダントやネックレス等、置いても綺麗なモノはテーブルに置いてもいいでしょう。

商品に合わせて試してみてください。

ライティングはもちろんテーブル置きの時と変わります。
壁に吊った場合はその商品に向けて当て直してください。

真正面で無く、ちょっと斜め横から当てるのがポイントです。

影の出方を見ながら、コントロールしてください。
強く出したいときは近づけて、弱めたければ離します。

以上が壁に吊った場合の応用編になります。

第四章
大物撮影
～家具編～

テーブルウェアだけでなく、家具やそれに準ずるサイズの物もあります。

この場合、前提条件として、デコレーションした壁面が商品より大きいということが必要です。

今回は、家具の中でも小柄なスツールを撮影したいと思います。



気を付けるポイントは以下の3点。

- セッティングはイメージを大切に
- ライティングは被写体の高さに合わせて
- カメラアングルは遊び心も大切に

では具体的に説明しましょう。

●セッティングはイメージを大切に●

もちろんテーブルには置けませんので床置きで撮影します。

ですので床面が気に入らない、雰囲気合わない場合、ラグを敷いたりして対応してください。

壁面からは50cm～1mほど離して置きます。

これはテーブルウェアと違い、影になる部分が多くなるためです。
安易に壁に近づけすぎると窮屈な写真になりがちです。気を付けましょう。
(壁面に置く家具はその限りではありません)

そしてテーブルウェア同様、イメージを高めるようなアイテムが置けると尚良いですね。

今回のツールにはノートとiPhoneを置いてみました。



●ライティングは被写体の高さに合わせて●

これまで同様にスタンドライトを斜め手前に配置します。

ここで気を付けたいのがライトの高さです。

あまり高い位置から当ててしまうと脚が暗くなってしまい、バランスが悪いです。

綺麗な影が伸びるくらいの高さが良いと思います。

作例を参考にしてみてください。

こういう微調整をする為、あまり背の高いスタンドライトよりはデスクライトのような背の低い物の方が融通が利きます。

座面と脚に上手く当たる様調整してください。



●カメラアングルは遊び心も大切に●

出来ましたらカメラの位置を考えましょう。
目線が高くなりすぎない様気を付けます。

1 m位の高さに合わせて撮りましょう。

バリエーションとして、スツールを重ねてみたり、
あえて壁面に着けて撮ってみても良いかもしれません。
いろんな表情が引き出せれば成功です。

もちろん単体でも撮って、商品写真にも使いましょう。





以上で家具編は終了です。

第五章
シズル撮影
～料理編～

シズル撮影とは、生ものを撮ることを言います。

基本的に料理のメニュー用の写真と思って頂いて結構です。

あまり流行っていない飲食店ではかなり高い確率でこの写真がお粗末です。逆に言うと流行っている店は必ず高いクォリティでメニュー写真を用意していることからこの重要性は伝わるとおもいます。

ちなみに飲食業関係でない方にも大変使える内容です。なぜなら「生もの」であれば大抵の被写体に応用できます。

その代表が「植物」です。

お花だったり、果物だったり。いろんなシチュエーションで和やかな雰囲気 연출することが出来ます。

写真業界ではこのシズル写真専門にしているカメラマンもいます。それくらい専門性が高く、難易度も高めです。

プロはびっくりするくらいの裏ワザのオンパレードだったりしますが、ここではそこまで深く追求した内容ではなく、基本に則ったシンプルな撮影方法をご紹介しますと思います。

ちなみにモチーフは素人の私が作った下手なプレーンオムレツです。べつにそんなに美味しいものじゃありませんからね。

美味しそうと思えたら、それは写真のチカラです。

他の章ではデコレーションした壁面を使って撮ってきましたが、このシズル撮影では使いません。

というのも、壁に向かって食べることは少ないですよね？出来るだけオープンな雰囲気を書しこんだ方が食べ物の写真としては正解です。

そしてもう一つ注意点があります。高い確率で水分を含んだ物が多くなります。（「シズル」とはここからきています。）

何を意味するのかというと、瑞々しさを撮ることが重要視されます。

難しく言いましたが、キラッとすべき素材をしっかりキラめかせて撮りましょう！ということです。

注意するポイントは以下になります。

- 逆光で【ツヤ】を表現
- 【おさえ】で優しく光を起こす
- 食べる時とは違うカメラアングル

では具体的な方法について述べて行きます。

●逆光で【ツヤ】を表現●

まず、光が差し込む窓辺に場所を作ります。

難しい場合は、壁から離して置いたテーブルに、逆光になるようにライトを当てましょう。

この逆光で撮るということが大前提となります。

商品によってはちょっと斜め逆光でも良いでしょう。その場で色々試してみましょう。



今回は自宅のダイニングテーブルを使って撮って行きます。

何故逆光にする必要があるかという疑問がおありかと思います。
先ほどお伝えした「キラッと」させるには、逆光が一番なのです。

例えばオムレツに載せたケチャップ。
キラッとしているかしてないかで全然印象が違います。
おにぎりでも然り。

瑞々しい！ = 美味しそう！ なのです。

この要素を満たそうとすることで必然的に良いシズル写真に近づけます。

この「キラッと」感は写真用語では【ツヤ】と呼ばれます。
そう、『艶を出す』の【ツヤ】です。



●【おさえ】で優しく光を起こす●

さて。逆光だけの【ツヤ】では綺麗に撮れません。引き続きライティングをしていきます。

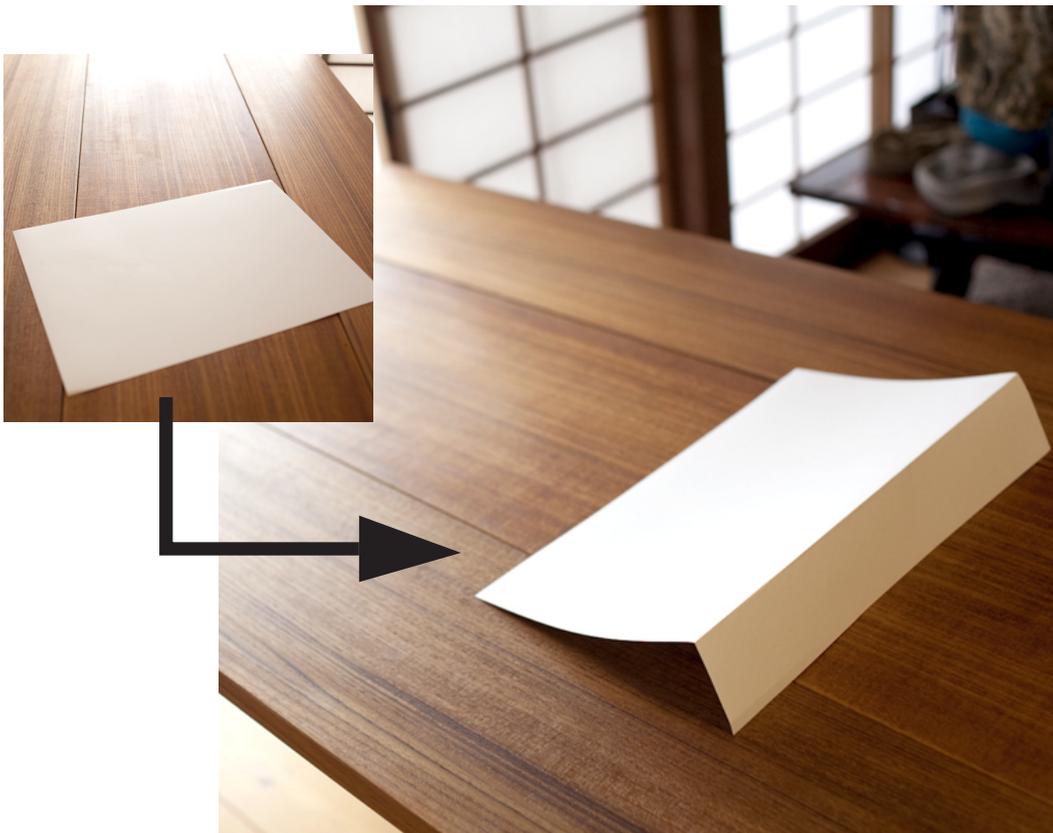
ツヤで瑞々しさを表現できたなら、次にメインの被写体に光を当てて行きます。

ですが強い光を正面から当ててしまうとツヤがかき消されてしまいます。それを避けつつ、明るさを補うために、逆光の反射を使いましょう。

鏡でなくて結構です。

白い布や紙を手前に置きましょう。

くれぐれも写真に写りこまないような場所にこのように設置します。



これだけで素晴らしく綺麗なライティングが完成です。

この手前からの柔らかい光の事を【おさえ】と言います。
簡単な用語なので覚えておきましょう。

【ツヤ】と【おさえ】
簡単ですね！

●食べる時とは違うカメラアングル●

料理に出来るだけカメラを近づけ、画面いっぱいに写してみましよう。
そこからだんだん離れて行って、一番魅力的な角度を探ります。

盛り付けによっては真上から撮っても素敵ですね。

作例を良く見てください。

ライト無しでここまで綺麗に撮ることが出来ます





一つ、気を付けて頂きたいのが、必ず「露出補正」をかけて欲しいという事です。

「露出補正」とは、カメラが判断した画面の明るさ度合い（露出と言います）を人為的に補正をかける機能を指します。

眩しくて白い被写体が画面に大きくあると、必ず暗く写ります。

【逆光では撮ってはいけない】となんとなく皆さん意識がお有りなのではないでしょうか？

それはこのカメラの自動露出によって生まれた認識です。

決して「いけない」訳ではないんです。

設定のしかたはカメラによって違いますが、上記の作例では +2 段程、撮影時に補正をかけてあります。

ちなみに + にすると明るく、- にすると暗く撮れます。

是非参考にして撮ってみてください。

第六章
人物撮影
～男性編～

この章では人物編撮影、男性の撮影方法についてお伝えします。

丁寧に写したスタッフの写真は消費者にとっても大きな安心感を与えます。

そうした写真を撮るための方法です。

あくまでもあなたが一人でも撮れなければ意味がありませんので、今回もストロボはつかいません。

ここでポイントを押さえておきましょう。

- シンプルな背景
- レンブラントライティングを使う
- 人物にはレフ板を
- 自然な表情

以上の要点を細かく説明していきます。

●シンプルな背景●

まず、背景を決めましょう。

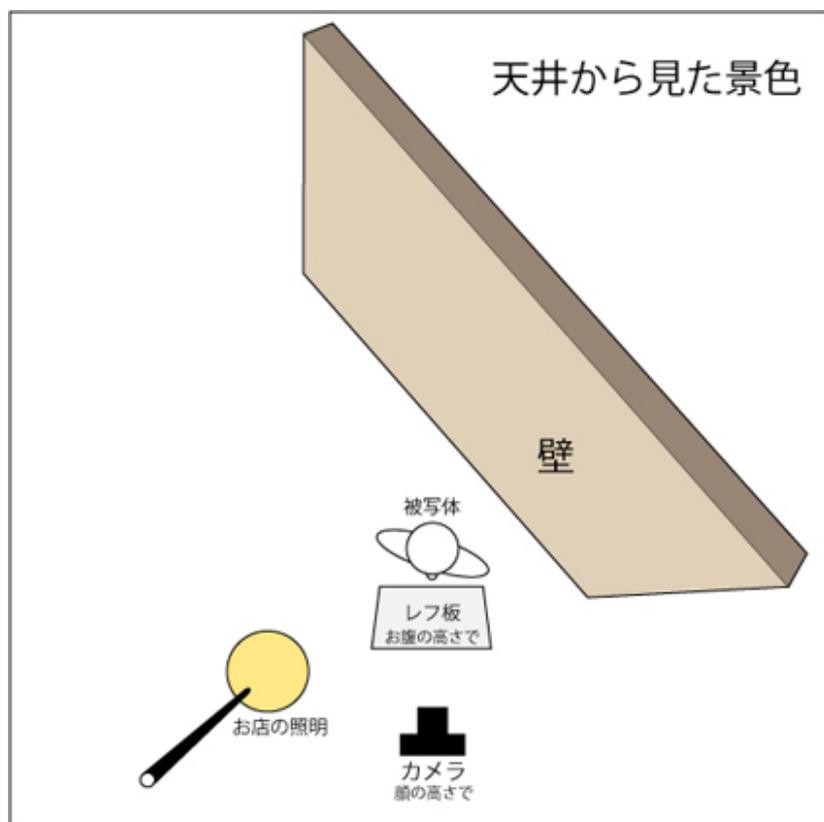
あまりごちゃごちゃとしていない所が理想です。

無論汚いよりは綺麗な壁を。

お店の伝えたいイメージが反映されるような場所が見つかるのが理想ですね。
決して真っ白や真っ黒な壁でなければいけない訳ではありませんので、じっくり検討して見ましょう。

背景が決まったら立ち位置を決めましょう。

背景から 50cm 程離れて、
壁に対して斜め方向から撮影します。



●レンブラントライティングを使う●

場所が決まったら、照明です。
なるべく明るい場所で撮りましょう。

被写体の斜め前方上空から光が当たると理想です。

レンブラントライティングと呼ばれる、人物編撮影の基本になります。

このレンブラントライティング、実は多用なパターンがあり、この撮影においては、若干変則的に使います。

あまり影が強くなりすぎると印象が怖くなってしまいますので、あくまでもソフト目に。

鼻の影があまり強く落ちすぎないように、ライトの位置を調整してください。
ライトから離れると、影も柔らかくなります。

そしてここが女性との違いなのですが、影がなくなってしまうと男性編の力強さ、信頼感が伝わりづらくなってしまいます。

あくまでも影の部分（シャドウ）はしっかり残します。
そして壁側の頬には影があるくらいで大丈夫です。

壁との距離と、ライトの距離と方向、うまくコントロールして見てください。

背の高いスタンドライトなどを使うと微調整も楽ですね。

●人物にはレフ板を●

そして鼻の下に強い影が落ちすぎると表情が重くなりがちなので、レフ板を使い明るくします。



上記のような写真用のものがあれば理想ですが、なければ段ボールにアルミホイルを広げたものでも構いません。白いTシャツを広げたものでもかまいません。

要は、電球を使わずに、その場にある光を手前から柔らかく反射させたいのです。

テレビなどでカメラマンのアシスタントが使っているのをご覧になったことがある方もいるのではないのでしょうか？

どんな形であれ、被写体の手前から顔に向かって光をなんとなく反射させてあればOKです。

以上のセッティングができればあとは撮影です。

●自然な表情●

被写体は光の方向に若干体をひねり、顔はカメラに向けます。
できるだけ優しい表情ができるといいですね。
おもいきり笑っても OK ですし、微笑むくらいでも OK です。

証明写真のような仏頂面は避けた方が賢明です。

難しい方は、
「いらっしゃいませ」という表情がとても自然です。
お得意様をイメージしてやってみましょう。

無事に撮影できましたら、不要な部分をトリミングします。
決して背景を入れすぎて人物が小さくならないよう気をつけてください。

先日依頼を頂いて撮ったレストランのシェフの写真がこちらです。



その写真を見てお店に行きたい！と思ってもらえるか、
そこがとても重要な部分かと思います。

ぜひを参考に撮影して見てください。

人物撮影
～女性編～

人物写真の撮り方、女性編です。

店舗・会社のサイトに載せる御担当者の写真用ですので、
プライベートの写真とは若干ニュアンスが違うかもしれません。

まず一つ考えて見ましょう。

お客様・消費者の立場に立った時、どんな担当者だったら嬉しいですか？

そう、見た目の美しさよりも、なにより信頼できそうかどうか。

通販サイトや企業 PR、直接顔が見えないという不安感を補うための担当者
写真です。

信頼感の持てそうな写真が正解ですよ。

男性よりも、女性は優しさが表れやすいです。

優しさはもちろんプラス要素なんですけど、じつは信頼感とはちょっと違う印象なんです。

現実に、キリッとしたちょっと厳しそうな女性がいたとして、
ちょっとお近づきにはなれそうになくても、ビジネス面では信頼できそう
じゃないですか？

実際の性格や雰囲気は伝えようがありません。

いかにお客様に信頼してもらえるか、そういう部分を重視した写真を撮りたい
と思います。

今回のポイントは

- 派手すぎない服装
- 直射日光の当たらない明るい場所
- 大き目のレフ板
- 落ち着いた笑顔

これを心がけて撮影しましょう。

では具体的に説明して行きます。

●派手すぎない服装●

あくまでお店のユニフォームもあるでしょうから、あくまでそれに即した可能な範囲でお願いします。

できるだけアクセサリは控えめに。

服の色もできるだけ濃色で落ちついた色調が好ましいです。

ネイビーや濃いめのグレーは落ち着いていて誠実な印象を与えます。

服の種類は襟があるシャツでも、無しでも良いですが、できれば鎖骨（デコルテ）が見える形が大人っぽくて素敵です。

決して胸元を大きく開けるわけではありませんので誤解のないように！

メイクは派手過ぎない程度で。アイラインとマスカラはしっかり目に。他はケバくならないように。あくまでもビジネスメイクで。

首元と顔の色が違いすぎないように気をつけてください。

●直射日光の当たらない明るい場所●

では撮影に進みましょう。

明るい場所の明るい壁の前が良いですね。

ここで気をつけて頂きたいのは、強く影ができないような場所を選んで頂きたいです。

照明から程よく離れていて、背景の壁からも 1m 程離れておきましょう。

●大き目のレフ板●

男性編同様にレフ版で手前から起こし(明るく照らし)ます。

アルミホイルをや白い布で代用することも可能です。

首の下や鼻の下に反射させるイメージで使います。

くれぐれもライトを下から当てないように。

肝試しの悪ふざけみたいな写真になりますから！

大きめのレフ版を用意することが綺麗な女性写真の重要なコツとなります。

両手で抱えないと持てないくらいの面積が欲しいです。

可能なら両サイドから当てるくらいに欲しいです。

男性との違いはほぼここで決まります。

●落ち着いた笑顔●

これは男性と同様、できるだけ自然な表情で。
店舗に即した「いらっしゃいませ」の表情で良いでしょう。

広角を上げ、胸を張って、
おへそを引き上げます。

頭のとっぺんから上に糸で引っ張られているイメージをしてください。
自然と背筋が伸びます。

ここまでできていればセッティングは完璧。

顔が暗くならないよう、露出補正をしつつ撮影しましょう。

ちょっと明るすぎるくらいでちょうど良いです。
あとから補正しても良いですね。



どうでしょうか？

男性よりも気をつける部分が多いですが、それだけの価値があるということです。

ぜひ試してみてくださいね。

第七章 おわりに

商品撮影から人物撮影まで、ネットショッピングに必要な写真の撮影方法についてお伝えしてきました。

如何だったでしょうか？

どこにでもある材料を使い、自分一人でも撮影可能な方法だったかと思えます。

まずは、落ち着いて撮影してみましょう。

きっと今までと違う写真が撮れているはずです。

より良くなった写真で、皆様の今以上の成功を心よりお祈りしております。

最後までお付き合いいただき、ありがとうございました。

Photographer nico.

<http://www.nicography.jp/>